

10 福岡市保育士・保育所支援センター

福岡市保育士・保育所支援センター（以下センター）は福岡県福岡市子ども未来局子育て支援部保育所指導課に地方公共団体無料職業紹介事業として設置されている。福岡市の直営として平成25年4月1日に開設し、開所時間は月曜日～金曜日の9時～17時30分である。センターの職員は5人（正規職員3・嘱託職員1・臨時職員1）、4人は元公立保育所所長を含む保育士有資格者であり、1人は保育士就職相談員（専任コーディネーター）として配置されている。一般社団法人福岡市保育協会（市内の民間保育所が加盟。以下「保育協会」と連携し、事業運営を進めている。市の直営で実施しているのは、潜在保育士を対象とした様々な支援をするために、状況に応じた方策を採る必要があり、仕様書で業務を依頼する委託業務では難しいとの判断による。

1 センターの取組

センターの主な業務は求職者に対する就職相談、就職あっせん、マッチング、求人者（事業所）への助言指導、現職保育士からの相談対応、保育士就職支援研修会の実施などである。運営母体である保育所指導課は保育協会と協力体制にあり、多様な取組を行っている。一例では保育所指導課が保育士の処遇改善について保育協会に講話等を行い、それに応じた各保育所

が「臨時職員の時給単価を100円増」「男性保育士受入保育所の増加」を実現するなど、保育士の就職・復職、職場環境の改善等に対する抜本的な対策を共同で推進している。

(1) マッチングの実施

マッチングはセンターに来所し、求職票及び求人票を作成した求人求職登録者（保育士）が対象となる。求職者は就職相談を実施する。保育事情に精通し、豊富な経験を積んだコーディネーターが対応に際して心がけているのが、求職者の意向である。相談は1時間程度を要し、どのような働き方を望んでいるのか（勤務条件、通勤時間、当番勤務の可否・日数、担当クラス、保育所の方針等）を聞き取り、調整を図る。遠方や来所が難しい求職者には電話、メール、郵送で対応する。また、登録に来所したものの就職までの意欲がそれほどない方、ブランクや経験不足等への不安が大きい方に対しては「保育士就職支援研修会」への参加を勧奨し、研修会後は求職への意欲を適時間い合わせる

【保育指導課の一角が面談コーナーとなっている】



など、フォローアップを含めた幅広い支援を行っている。

(2) 求人・求職登録の実施及び工夫

登録に必要な求職票は、市及び保育協会のホームページから印刷することが可能である。さらに平成 26 年 11 月から市内の区役所 6 ヶ所において各区子育て支援課と連携の下、センターを臨時開設しており、福岡市保育士会のイベントでもセンターのブースを土曜日に臨時開設する等、市内全域におけるセンターの周知及び登録勧奨に努めている。求職登録総数は 544 人、求人数は 110 保育所から 323 人に上る（平成 26 年 10 月 20 日時点）。

(3) 相談業務（問い合わせ対応）の実施

問い合わせを含む相談業務は電話（匿名でも可）と来庁により対応している。求人情報に関する内容、保育士登録（保育資格から保育士資格への新規登録、書換え等の登録変更）の要件、現職保育士から職場環境に関する相談等である。相談内容は、職場の雰囲気や厳しい雇用環境（残業していることを所長が知らないなど）であり、相談業務だけで解決することが難しいケースがある。4 人の職員が持ち回りで電話相談と来庁者に対応し、労働条件に関する相談等、専門的な知識が求められる場合は、必要に応じて労働局を紹介している。

【相談業務（問い合わせ）状況】

（単位：件）

年 度	求職関係		その他(登録・就職についての相談)		合 計
平成 25年度	1,524		146		1,670
	電 話	来 所	電 話	来 所	
	950	574	110	36	
平成 26年度 (～10/20)	637		68		705
	電 話	来 所	電 話	来 所	
	454	183	40	28	
合 計	1,404	757	150	64	2,375

(4) 保育士就職支援研修会の実施

保育士就職支援研修会は平成 23 年度から保育協会との連携の下、こども未来局子育て支援部保育所指導課が開催している。対象は現職を含む保育士有資格者、登録申請中の方、養成施設卒業予定者である。研修の内容は保育所保育指針と保育行政などの保育概要、連絡帳の記入方法などの実務、保育所所長を交えたフォーラムなど多様なメニューである。センターに寄せられた求職者からの相談内容を紹介し共有することで、参加者の不安や疑問を解消する機会にもなっている。会場には求人票を掲示しているほか、①「求職票の登録・紹介」②「見学受付」③「就職相談」の各ブースを設けている。②「見学受付」は希望者に「見学証」を渡し、指定期間に希望の保育所を 2 ヶ所訪問し、保育現場の雰囲気を知るという目的から実施している。③「就職相談」は保育所所長と保育所指導課の職員が相談に応じる。9 回の開催を通じた参

加者は 488 人（一般：413 人、学生：75 人）、そのうち保育士として就職したのは 155 人、一般参加者のうち 38%の割合である。

【保育士就職支援研修会参加者数(平成 23～26 年度)】
(「保育士としての就職」は一般参加者数内での割合)

年度	月 日	時 間	申込者	参加者数 (一般/学生)	見学	実習	センター登録済み	新規登録	保育士として就職
平成23年度	1月18日 (水)	10:00 ～15:00	76	64 (64/0)	21	3			17 (27%)
平成24年度	7月4日 (水)	10:00 ～15:30	71	60 (60/0)	23	6			21 (35%)
	11月16日 (金)		64	52 (52/0)	24	1			18 (35%)
平成25年度	7月3日 (水)	10:00 ～15:30	122	99 (78/21)	26	5	0	33	25 (32%)
	11月14日 (木)		73	54 (34/20)	27	0	7	11	12 (35%)
	1月19日 (日)	13:00 ～16:30	89	62 (58/4)	28	0	20	29	34 (59%)
平成26年度	5月28日 (水)	13:00 ～16:30	55	51 (36/15)	14	0	7	12	14 (39%)
	8月31日 (日)		40	32 (20/12)	18	0	6	8	9 (45%)
	10月26日 (日)		17	14 (11/3)	13	0	3	4	5 (45%)
	1月18日 (日)		実施予定						
合 計			607	488 (413/75)	194	15	43	97	155 (38%)

(5) 保育所見学・実習の実施

保育所見学は、保育士就職支援研修会の中で、希望者を募る形式で実施され、受入が可能な認可保育所から、希望者が 2ヶ所まで選択し、日程を調整する。9 回の実施で延べ 194 人が参加した。「保育士資格を取得したばかりで登録申請中

だが、2ヶ所行き、とても勉強になった。今回も見学を希望する予定」(研修会アンケートより引用) など、養成施設を経ずに保育士資格を取得した求職者が初めて保育現場を訪問する貴重な機会となっている。また実習については、希望があれば公立保育所で実施する体制をとっている。

2 センター運営の特徴・工夫点

センター運営の特徴は求職者と求人者との細やかなニーズ調整である。保育士経験者である職員が求職者の希望に応じ、求人保育所に確認をしながらあっせんを行う。一例として、コーディネーターが福岡市内の保育所分布図を作成したものを使用して求職者の通勤圏内を測り、希望条件に合った保育所を探すなど実情に応じた取組を進めている。保育協会との連携も大きな特徴である。必要に応じて保育協会に協力を要請し、求人票の記入法、賃金の設定等について改善案を提案している。ハローワーク、指定保育士養成施設(教員あるいは就職支援担当者)、福祉人材確保推進協議会(福祉施設の担当者)とはセンター業務の周知依頼(チラシ掲示・配布)、情報交換を行っている。

【職員手書きの保育所分布マップ 地域ごとに色分けされている】



3 センター運営の実績

センター運営による保育士採用者数は開設から平成 26 年 10 月 20 日現在で 318 人（平成 25 年度：246 人、平成 26 年度途中：72 人）である。同時期の求職者数 544 人、紹介数 453 件を換算すると 70%の採用割合である。センターの方針としては求人者と求職者が無理をせずに互いのニーズを一致させる方向を目指している。そのほかの成果としては、求人側の意識の改善（求人票における就業条件の明示、遵守）や前述した保育士の処遇改善（臨時職員の時給単価 100 円増、男性保育士の受入保育所の増加）がある。これらはいずれも保育指導課が、保育所の所長と共に保育士養成施設を訪問し、調査した結果を取りまとめ、保育協会に改善案を提示した内容に基づいている。時に応じて庁内の監査指導課の協力も得ながら地道に保育現場の声を集め、実績を上げている。

【平成25年度/平成26年度（～10月20日）の紹介・採用数】（単位：人）

年 度	求職登録者数	紹介数	採用数
平成 25 年度	415	346	246(71%)
平成 26 年度	129	107	72(67%)
合 計	544	453	318(70%)

4 センター運営の課題

課題としてはセンターの支援対象である潜在保育士の掘り起こしが挙げられる。市内に 10 校ある養成施設に依頼し、卒

業生に向け、就職支援研修会への参加やセンターの利用を呼びかけている。次に保育士の処遇に関連した保育所の採用状況の改善（正規職員での採用、男性職員の受入、労働環境の整備）である。センターのみならず、保育所指導課と保育協会が連携し、保育現場の実情に沿って取り組む必要がある。

【保育士就職支援研修会「参加者アンケート」】（一部引用文言修正）

- ① 前回に参加した時と同様、大変参考になった。現在、保育士資格を取得したばかりで登録申請中だが、前回に参加した見学が勉強になったので今回も希望する予定だ。
- ② 求人票が多く出ており、研修内容も楽しくわかりやすい会だった。求職に関する不安が楽になった。
- ③ 不安材料が少なくなった。仲介していただけるのが心強く、前向きに就活したい。
- ④ 不安な気持ちで来たが、研修中、何度も「やってみて下さい」と言われて、少し自信が出た。
- ⑤ ブランクがあり、どういう内容か知りたくて参加した。
- ⑥ 現場の先生方と話す機会をいただけて、大変ありがたかった。不安なことが多い中嬉しかった。
- ⑦ とても有意義な時間だった。やはり保育士として働きたいと改めて思った。
- ⑧ 細かい内容で大変役立った。連絡帳の書き方は改めて勉強になった。
- ⑨ 保育士資格を持っていても現場経験にブランクのある方が多く、支援が素晴らしいと思った。
- ⑩ 連絡帳の記入など実際の保育に役立つ情報をありがとうございます。
- ⑪ 託児があったので、参加できた。仕事を先に決めるか、保育所を先に決めるか難しい。